高校公民プリント（過去問類似）
西洋の近現代思想 No.3

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

得点 ／9

問1 前期には、言語は世界の事実を写し出す絵のようなものであるとする写像理論を唱えたが、後期には、言語の意味は日常生活における多様なルールを伴う言語の使用のなかで決定されるという考え方を提唱し、現代の言語哲学や分析哲学に決定的な影響を与えたオーストリア出身の哲学者は誰か。（2013年　全国公立入試　類似）

1. ウィトゲンシュタイン　**2.** キェルケゴール　**3.** レヴィ＝ストロース　**4.** メルロ＝ポンティ

問2 近代的な個人主義が前提とする、社会や歴史から切り離されて自己決定を行う孤立した個人像を批判した思想がある。この思想では、人間は歴史や伝統を共有する社会のなかで他者と関わり、その社会が目指す「共通善」を身に付けることによって初めて道徳的人格を形成できるとされる。このような、歴史や伝統、共通の価値を重視する現代の思想的立場を何というか。（2025年　全国公立入試　類似）

1. コミュニタリアニズム　**2.** コスモポリタニズム　**3.** マルチカルチュラリズム　**4.** リバタリアニズム

問3 あらかじめ用途が定められている道具とは異なり、人間はまずこの世に存在し、その後に自らの自由な選択と行動によって自己のあり方を決定していく。このような人間のあり方を表現した、フランスの哲学者が提唱した思想上の言葉は何か。（2006年　全国公立入試　類似）

1. 死への存在である　**2.** 主体性は真理である　**3.** 人間は自由である　**4.** 実存は本質に先立つ

問4 自然状態における人間は、自己保存の欲求である自己愛と、他者の苦痛を嫌う憐れみの情をもつ善良な存在であったが、文明の発達や私有財産制の成立、さらには他者からの評価を気にする世間の評判への執着によって、不平等と悪徳に満ちた社会へと陥っていったとする、18世紀のフランスの思想家が著した書物は何か。（2024年　全国公立入試　類似）

1. 人間不平等起源論　**2.** 社会契約論　**3.** 純粋理性批判　**4.** 市民政府二論

問5 オーストリア出身の哲学者ウィトゲンシュタインは、その思想の後期において、言語の意味は固定された指示対象との対応によって決まるのではなく、日常生活における具体的な規則に従った言語の使用そのものの中にあると考えた。このような、多様な言語の営みをさまざまなルールをもつ遊びになぞらえて表現した概念を何というか。（2013年　全国公立入試　類似）

1. 言語ゲーム　**2.** 感覚データ　**3.** 言語コード　**4.** 論理タイプ

問6 近代以降、人間は自然を支配し自己の主体性を確立しようとして理性を発展させてきたが、その結果、自らが生み出した合理的な管理社会のシステムに縛られ、かえって主体性を奪われるという逆説が生じた。フランクフルト学派の思想家たちが批判した、目的を効率的に達成するための手段や道具と化したこのような理性のあり方を何というか。（2024年　全国公立入試　類似）

1. 社会的性格　**2.** 批判的理性　**3.** 批判的理論　**4.** 道具的理性

問7 18世紀ドイツの哲学者は、従来の「認識が対象に従う」という考え方を逆転させ、人間の主観が持つ認識能力によって対象を構成し、「対象が認識に従う」と考えた。この認識論における劇的な発想の転換を、天文学上の地動説への転換になぞらえて何と呼ぶか。（2012年　全国公立入試　類似）

1. デカルト的懐疑　**2.** ヘーゲル的弁証法　**3.** コペルニクス的転回　**4.** スピノザ的汎神論

問8 知性を、人間が環境に適応し、直面する課題を解決するための道具とみなす立場をとり、環境との相互作用を通じて未来を展望する能力を「創造的知性」と呼んだ。また、実践的な問題解決型教育を重視し、学校を社会生活の実験場と位置づけた、著書『民主主義と教育』で知られるアメリカの哲学者は誰か。（2017年　全国公立入試　類似）

1. ジェームズ　**2.** ローティ　**3.** デューイ　**4.** パース

問9 精神と物質を独立した二つの実体とする物心二元論を唱え、物質の本性を「延長」と捉えるとともに、物質世界を神が定めた自然法則に従って動く機械のようなものとみなす自然観を確立した、フランスの哲学者は誰か。（2004年　全国公立入試　類似）

1. スピノザ　**2.** デカルト　**3.** ヘーゲル　**4.** ベーコン

答え合わせ・解説 No.3

問1	**答え 1** **ウィトゲンシュタイン**	前期には論理実証主義に大きな影響を与えた『論理哲学論考』を著し、後期には日常言語の分析へと向かって「言語ゲーム」の概念を提唱した哲学者はウィトゲンシュタインである。
問2	**答え 1** **コミュニタリアニズム**	ロールズらのリベラリズムが想定する、自己の目的を自由に選択できる「負荷なき自己（孤立した個人）」を批判し、人間は歴史や伝統、共通の価値観（共通善）を持つ共同体に埋め込まれた存在（位置づけられた自己）であると主張する立場。マッキンタイアやサンデル、テイラーらによって提唱された。日本語では共同体主義とも呼ばれる。
問3	**答え 4** **実存は本質に先立つ**	人間にはあらかじめ定められた本質や目的がなく、まず存在（実存）し、その後に自由な選択と行動によって自らの本質を形成していくという考え方を表している。あらかじめ設計図や用途が決まっている道具（本質が実存に先立つ）との対比で説明される。
問4	**答え 1** **人間不平等起源論**	18世紀フランスの思想家ルソーは、著書『人間不平等起源論』において、人類の歴史を自然状態から文明社会への移行過程として描き出した。自然状態の人間は自己愛と憐れみの情（同情心）によって平和に暮らしていたが、土地の所有（私有財産制）の開始や、他者からどう見られるかという世間の評判への関心が生じたことで、虚栄心や羨望といった悪徳が生まれ、社会的な不平等が固定化されたと論じた。
問5	**答え 1** **言語ゲーム**	ウィトゲンシュタインは、前期の思想（『論理哲学論考』）において、言語は世界の事実を写し取る「写像」であると考えた。しかし、後期の思想（『哲学探究』）ではこの考えを改め、言語の意味は日常生活における具体的なルールに従った「言語の使用」そのものの中にあるとした。彼はこの多様な言語の営みを、ルールに従って行われる遊びになぞらえて「言語ゲーム」と呼んだ。これにより、自然科学の言語だけでなく、日常の多様な言葉のやり取りもそれぞれ独自のルールを持った有意味な営みとして肯定された。
問6	**答え 4** **道具的理性**	近代の合理主義は、人間が自然を支配し、自らの主体性を確立するための力として機能してきた。しかし、ホルクハイマーとアドルノは、この理性が肥大化した結果、人間自身をも効率的に管理・支配するための「道具」へと変質してしまったと指摘した。彼らは共著『啓蒙の弁証法』において、この理性のあり方がファシズムなどの全体主義をもたらした背景にあると批判した。
問7	**答え 3** **コペルニクス的転回**	カントは、認識の対象が先にあってそれを人間が受動的に写し取るのではなく、人間の主観に備わっている認識の枠組み（感性と悟性）によって対象を構成することで初めて認識が成立すると主張した。この主客の逆転を、天動説から地動説への転換になぞらえて「コペルニクス的転回」と呼ぶ。
問8	**答え 3** **デューイ**	パースやジェームズのプラグマティズムを継承・発展させ、知性を環境に適応し問題を解決するための道具とみなす道具主義を唱えた。環境との相互作用の中で未来を切り拓く知性を「創造的知性」と呼び、従来の暗記型教育を批判して、実践的な問題解決学習を重視する教育改革を提唱した。その思想は『民主主義と教育』などの著書にまとめられている。
問9	**答え 2** **デカルト**	精神の本性を「思惟」、物質の本性を「延長」とし、両者を独立した実体とする物心二元論を唱えたのはデカルトである。彼は、物質世界を目的を持たない機械的なものと捉える機械論的自然観を提示し、近代科学の誕生に大きく貢献した。